

# 令和元年度 各専門部会・プロジェクト状況等報告書

1. 名称 【 暮らし支援部会 】

2. 部会員数 【 33 名】令和2年3月31日時点

3. 令和元年度の開催回数

4月			5月			6月		
会議	1	回	会議	1	回	会議	1	回
参加者	12	名	参加者	18	名	参加者	17	名
7月			8月			9月		
会議	1	回	会議	1	回	会議	1	回
参加者	18	名	参加者	13	名	参加者	20	名
10月			11月			12月		
会議	1	回	会議	1	回	会議	1	回
参加者	16	名	参加者	10	名	参加者	13	名
1月			2月			3月		
会議	1	回	会議	1	回	会議		回
参加者	16	名	参加者	16	名	参加者		名

会議開催総回数 11 回

参加者総数 169 名

その他の活動：

☆檜地区社会福祉協議会との連携～檜地区障がい福祉事業所との意見交換会

☆「こまったときのおたすけマン」作成

4. 令和元年度の活動内容について

令和1年度も「災害」をキーワードとして、地域と障害のある人をつなぐための方策を検討、投げかけを行いました。  
 まず、檜地区社協との連携を図り、地域住民の障がいの理解促進や地域の障がい福祉事業所との連携構築等を目標に設定し、檜地区内の障がい福祉事業所との意見交換会を実施し、事前アンケートとして災害に対する不安点等を聞きました。  
 また、3年前に暮らし支援部会で作った「こまったときのおたすけマン」を再編集し、民生委員や相談支援専門員に協力をもらい障がい当事者に配布することに決定。表面には地域の相談機関の紹介、裏面には緊急連絡用及び災害時用の項目を入れいざという時に活用できるものとして作成することにしました。  
 また、暮らし支援部会だけでなく自立支援協議会の他の部会との連携も図り、災害に関する意識を共有できるようにしました。

5. 令和2年度の活動予定について

これまでの動きを踏まえ、「災害」をキーワードに、障がい福祉サービス事業所や当事者団体と連携して障がい当事者の意識づけを行うとともに、地域内での関係機関とのネットワークの形成を図っていきたくと考えています。  
 また、自立支援協議会全体として災害に対する協議や取り組みを検討していきたく思います。  
 ☆地域へのアプローチ～ワークショップ等の開催、モデル地区でのネットワーク形成  
 ☆障がい福祉事業所へのアプローチ～災害に関する意識調査（就労支援部会との協力）  
 ☆当事者へのアプローチ～「こまった時のおたすけマン」配布